

- 鉄道一般
- 車両
- 施設
- 電気
- 運転・輸送
- 防災
- 環境
- 人間科学
- 浮上式鉄道

# WCRR 2019の概要



兎束 哲夫  
Tetsuo Uzuka

国際業務部 次長  
WCRR2019実施本部 本部長

鉄道総研は2019年10月28日から11月1日にかけて、東京国際フォーラムにおいて第12回世界鉄道研究会議 (World Congress of Railway Research : WCRR2019) を開催します。東京でのWCRR開催は1999年以来20年ぶりとなり、技術者および研究者などの交流に加え、我が国の鉄道技術を全世界の鉄道関係者に向けてアピールする絶好の機会となります。ここではWCRRの歴史と役割、東京開催のWCRR2019の概要を示します。

## WCRRとは

世界鉄道研究会議 (World Congress of Railway Research : 以下WCRRと略称) は、鉄道研究の価値および利益、鉄道研究および技術開発の向上、国際的な協力および技術情報の共有を使命として1994年から2~3年ごとに開催されており、世界各国の鉄道技術者のみならず、主要な鉄道関連組織のマネジメント層が一同に会する会議です。これまでの歴史を表1に示します。

WCRRは鉄道研究をリードしてきた国際鉄道連合 (UIC) およびフランス国鉄 (SNCF)、ドイツ鉄道 (DB)、イタリア国鉄 (Trenitalia)、英国鉄道安全標準化機構 (RSSB)、米国運輸技術セン

ター (TTCI)、鉄道総研からなる組織委員会 (ORGanizing Committee : ORGと略称) によって運営されています。

大会開催などの実務遂行は、各組織から1名以上の実行委員会 (EXEcutive Committee) が担当します。鉄道総研からは渡辺専務理事が組織委員長、土屋国際業務部長が実行委員長を務めています。

## WCRR2019とテーマ

本年10月28日から11月1日に東京国際フォーラムにおいて、第12回世界鉄道研究会議WCRR2019を開催します。日本での開催は、1999年に鉄道総研国立研究所内で開催したWCRR'99に続いて2回目となります。

WCRR2019の会議テーマはRailway research to enhance the customer experience (カスタマー・エクスペリエンスを高めるための鉄道研究) です。ここでいうカスタマー・エクスペリエンスとは「顧客が鉄道利用に価値を見出すことのできる『良質な経験』」であり、『良質な経験』には、安全・安心の確保、高い利便性、低コストサービス、環境への配慮などが含まれます。本会議では、これらを実現するための手段としての研究開発の役割について参加する皆様と考えることとなります。WCRR2019では鉄道事業者、鉄道産業および鉄道研究それぞれの立場からカスタマー・エクスペリエンスの向上を目指した発表を行います。

表1 WCRRの歴史

回	会議名	開催地	主催機関
1	WCRR '94	仏・パリ	フランス国鉄
2	WCRR '96	米・コロラド・スプリングス	米国運輸技術センター
3	WCRR '97	伊・フィレンツェ	イタリア国鉄
4	WCRR '99	日本・東京	鉄道総合技術研究所
5	WCRR 2001	独・ケルン	ドイツ鉄道
6	WCRR 2003	英・エジンバラ	英国鉄道安全標準化機構
7	WCRR 2006	カナダ・モントリオール	米国運輸技術センター
8	WCRR 2008	韓国・ソウル	韓国鉄道技術研究院 (KRRI)
9	WCRR 2011	仏・リール	フランス国鉄
10	WCRR 2013	オーストラリア・シドニー	オーストラリア鉄道連盟 (ARA)
11	WCRR 2016	伊・ミラノ	イタリア国鉄
12	<b>WCRR 2019</b>	<b>日本・東京</b>	<b>鉄道総合技術研究所</b>

## WCRR2019のロゴ

タイトルに示したWCRR2019のロゴには、次の意味を持たせました。

- ・ WCRRの象徴として地球
- ・ 日本の象徴として桜の花
- ・ 開催地の象徴として東京の風景
- ・ 日本が新幹線を創った象徴として高速鉄道



図1 WCR2019会場の東京国際フォーラム外観  
(© TOKYO INTERNATIONAL FORUM CO., LTD.)

10/28(月)	10/29(火)	10/30(水)	10/31(木)	11/1(金)
	オープニング		プレナリー3	テクニカル ビジット
	プレナリー1	セッション	セッション	
	セッション		ランチ	
	ランチ	ランチ	セッション	
レジス トレーション	セッション	プレナリー2	セッション	
		セッション	クロージング	
レセプション	東京湾クルーズ	ガラディナー	—	

図2 WCR2019スケジュール

## 運営体制

鉄道総研内にはWCR2019実施本部を設置して準備を進めています。さらにJR各社からなるWCR2019国内委員会を構成し、各社と協議しながらテクニカルビジット候補地の選定や展示内容など多岐にわたる議論を行い、JRグループ全体でWCR2019を支える仕組みとしています

## WCR2019の概要

### 会場

WCR2019は有楽町駅に隣接し、東京駅を発着する新幹線を見下ろす東京国際フォーラム(図1)で開催します。

開閉会式やプレナリーセッションは劇場形式のホールC、主な論文発表はホールDとガラス棟および地下展示場隣接のセミナールーム、スポンサー展示は地下のホールEが会場となります。会期中のスケジュールを図2に示します。

### 論文発表

2018年5月から8月まで以下の8トピックに分類して発表論文の要約を募集したところ、世界中から約640本の応募をいただきました。

- 1) サービス品質・速度・速達性・機能性の向上
- 2) 経済・政策・計画
- 3) 持続性
- 4) 安全と防災
- 5) 車両
- 6) インフラストラクチャー
- 7) 鉄道システムの境界領域

## 8) 磁気浮上式鉄道と新システム

これらのアブストラクトに対しては、2名ずつの査読者が採点しました。そして2019年1月に滋賀県長浜市で開催した(国際)実行委員会において約350件の一般論文と約50件の企画セッション論文を採択するとともに、2月上旬に投稿者に対して採択通知を送付しました。タイムスロットの制約などで、残念ながら多くの質の高い論文が採択できませんでした。

現在は採択された論文のフルペーパーを募集中です。

### プレナリーセッション

10月29日(火)午前の開会式から、WCR2019がスタートします。引き続きプレナリーセッション1「カスタマー・エクスペリエンスを高めるための鉄道事業者の役割(仮題)」として、各国の鉄道事業者が参加するパネルディスカッションを実施します。

30日(水)にはプレナリーセッション2「鉄道価値を上げるための鉄道産業の貢献(仮題)」としてメーカー・建設関係各社の状況、31日(木)にはプレナリーセッション3「将来の鉄道のための研究開発(仮題)」として鉄道総研を含む世界の鉄道研究のあり方がそれぞれ議論されます。

### ガラディナー

WCR2019の正式な晩餐会であるガラディナーは、2019年1月に改装オープンした東京會館丸の内本館のメインバンケットで開催します。場所は

皇居に面した一等地であり、東京国際フォーラムから徒歩5分です。

### スポンサー展示

WCR2019では、多数の企業からスポンサー応募をいただきました。東京国際フォーラムの地下展示ホールEには、国内外から応募いただいたスポンサー各位による技術展示が並びます。

### JR展示

ダイヤモンドスポンサーには鉄道総研がJRグループとして就き、JR7社および鉄道総研に関する展示を行います。

### テクニカルビジット

最終日の11月1日(金)にテクニカルビジットを実施します。海外、および日本の参加者の皆様には、なかなか見ることのできない鉄道の現場をご覧いただき、日本の鉄道に対する理解を深めていただきます。見学先は、JR各社、JRシステム、鉄道・運輸機構および東京メトロ、埼玉新都市交通、さらに鉄道博物館と京都鉄道博物館の多大なるご協力をいただき、鉄道総研国立研究所を含む11コースを用意しました。すでにWCR2019のホームページに公開しております。

### おわりに

着々と準備が進むWCR2019。皆様からのご協力に改めて感謝するとともに、皆様のお越しをお待ちしております。RRR